

科目名	薬学基礎実習Ⅱ		科目名（英文）	Basic Pharmaceutical Practice II		
学部・学科	薬学部・薬学科	配当年次・学期	1年次・後期		クラス	全クラス
履修区分	必修	授業担当者	太田 茂、長野 一也、佐能 正剛、山下 琢矢、高岡 尚輝、堤 峻太郎		科目ナンバリング	310430
関連科目	生物学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ、生命科学Ⅲ、生命科学演習、分子生物学、毒性学、衛生化学Ⅰ、衛生化学Ⅱ、衛生化学Ⅲ					

<p>本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー</p> <p>薬剤師の活動の基盤となる科学的知識、情報収集、思考、判断の重要性を実感し、具体的な手法について経験を通して習得する。高度な医療及び科学における適切な分析、判断を可能とする基礎的な科学的アプローチを修得し、それらを活用した問題解決能力を培う。</p>

<p>ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力</p> <p>薬学基礎実習Ⅱは、生物および衛生領域に関する情報を扱い薬剤師として臨床および研究の場で活躍するために、獲得した知識を活用し実践的に物質を取り扱うことで新たな知識を創発的に生み出していく能力を養う。</p>
--

<p>アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価</p> <p>基本的な知識の再生のみではなく、薬剤師、薬学研究者に求められる思考、行動を、実験および討議・発表時の行動から評価する。また、レポートでは、実験により得た知見、特に、科学的分析結果から明らかになる物質の性質を解説した上で、その知見を活用した問題解決に至る考察していることを評価する。</p>
--

授業計画			
回	学習内容・課題	学習方法（場所）	評価方法
1	実習ガイダンス、導入講義Ⅰ 基礎衛生実習（環境・食品について1）「二酸化炭素／残留塩素の定量」	講義、演習、実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
2	基礎衛生実習（環境・食品について2）「食品に含まれる着色料の検出」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
3	基礎衛生実習（環境・食品について3）「ビタミンCの定量」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
4	実習発表・討議1	演習、プレゼン （大講義室）	レポート 観察記録 発表プロダクト
5	実習ガイダンス、導入講義2	講義、演習 （大講義室）	レポート 観察記録
6	基礎生物実習1（生体組織・個体について1）「動物解剖」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
7	基礎生物実習1（生体組織・個体について2）「動物組織の顕微鏡観察」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
8	基礎生物実習1（生体組織・個体について3）「コリンエステラーゼ活性測定」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
9	実習発表、討議2	演習、プレゼン （大講義室）	レポート 観察記録 発表プロダクト
10	実習ガイダンス、導入講義3	講義、演習 （大講義室）	レポート 観察記録
11	基礎生物実習2（生体分子について1）「細胞培養と顕微鏡観察」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
12	基礎生物実習2（生体分子について2）「化学物質が細胞に与える毒性評価」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
13	基礎生物実習2（生体分子について3）「抗生物質の抗菌効果」	実習 （南棟4階実習室）	レポート 観察記録
14	実習発表、討議3	演習、プレゼン （大講義室）	レポート 観察記録 発表プロダクト
15	総合演習	演習 （大講義室）	レポート

教科書
・配布する実習書 ・必携・衛生試験法 第3版 公益社団法人日本薬学会編
参考書
評価時期
レポート(全期間) 実験中の観察記録(1,2,3,6,7,8,11,12,13回) 発表のプロダクトおよび観察記録(1,4,5,9,10,14,15回)
評価方法
レポート(50%) 実験中の観察記録(20%) 発表のプロダクトおよび観察記録(30%)
評価基準
本科目は参加型の学習であるため、公的な理由(冠婚葬祭、診断書付き欠席届等)が無く、欠席した場合、単位を認めない場合がある。十分注意すること。 上記評価方法の総評価60%以上で合格。
学生へのメッセージ
担当者の研究室等
研究室902(太田 茂) オフィスアワー：毎週水曜日12：40～13：40 17：30～18：30 研究室1001(長野一也) オフィスアワー：毎週水曜日12：40～13：40 17：30～18：30
備考、事前・事後学習課題
実習を円滑に進行させ学習効果を最大化するためには、毎回の実験実習内容に関する予習復習(2時間程度)を行うことが望ましい。また、実験実習後の疑問、不明点に関して自己学習による補完を行いながらレポートを作成すること(3時間程度)。発表用のプロダクト作成は時間内では困難であると予想されるため、自発的な情報収集、評価、活用へのべ7～10時間程度は取り組むことが望ましい。